

67 改めて、「教育協働」は、「ひとつづくりとまちづくり (の循環)」にどう位置づくの?!

堂本 彰夫

(1) ひよんなことから?、「まちづくり」論議の最前線に呼び出された?! 一体、何故なのであろうか?!

話は変わるが、先号 (66) で触れた、東京の国立教育政策研究所社会教育実践研究センター (国社研) の「公民館職員専門講座」(文科省と共催) でのオンライン講義も無事終わり、ホッとしたのも束の間、今度は、「なほ市民協議会 (任意団体)」主催の「円卓会議」(協力: 公益財団法人みらいファンド沖縄/NPO法人まちなか研究所わくわく) の着席者 (登壇者?) の一人を依頼されている! その「円卓会議」は、二日に分けて開催されるものであるが、私の出番は、2日目 (27日) である。実は、今日が、その日である (具体的には19:00~20:30)! ちなみに、同円卓会議とは、「地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ (課題) を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・学識・NPO・メディア等、多様なメンバーが一同 (堂?) に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。」とある。

今日の、私の役割は、1日目 (13日) に行われた、「(現在のコロナ禍において) 集まらない時代に、まちづくりで何が起きたのか? 失ったものと得たもの」というテーマの情報提供 (問題提起?) のパート (出演者5+1人) を受けて (録画視聴)、それに関わる意見・感想等、司会者? の質問に応える形で述べることである! 本当は、会場 (那覇市内) に行つての参加を望まれたが、最近の沖縄県の、新型コロナの感染者数の増大もあり、私 (だけ?) は、自宅 (「岳陽舎」) からの参画にしてもらっている。主催者には、大変申し訳ないとも思うが、ズーム会議方式にも多少慣れてはきているので、こうした対応をさせてもらう次第である!

さて、そのことは、ある意味どうでもよいのであるが、問題は、何故私が、そのような「まちづくり」論議の最前線に呼ばれたのかである?! 那覇市の方では (も?)、随分前になるが、「協働のまちづくり」ということが指向され、「市民活動支援センター」や、その後、「市民協働大学 (院)」や、その成果を生かす「協働大使」というようなしくみや人材活用の動きも顕著となり、直接のお手伝いはなかったものの、「ああ、那覇市も頑張っているなあ!」という視線 (思い?) だけは、一方で送り続けていた私ではある?!

ただし、私からすれば、そうしたしくみづくりや施策の実施部署が、いわゆる「市長部局 (市民文化部まちづくり協働推進課)」の方にあり (新しくそうした部署が出来た?)、一方で、そうしたしくみづくりや施策の部分を持ってきた (はず?) の教育委員会の部署 (社会教育担当) が、徐々に解体・縮小され (見えなくなり?)、教育行政における「地域教育経営→教育協働」を提唱してきた私からすれば、かなり複雑な思いを抱かせるものではあった?! 実際の状況や内部事情を、ほとんど (まったく?) 知らない私の独断と偏見かもしれないが、まさに教育委員会の社会教育部門 (の中核?) が、市長部局の方に移行してしまっている? やはり、それは、まずいのではないか? そういうふうにも受け止めていたということである?!

このことについては、これまで何度も喋ってきているように、現在、(文科省の提唱による)「総合教育政策化」(学校教育と社会教育の一体的推進) の動きの中で、実際には、かなり多様な実態が出来しており、この那覇市のように、社会教育 (行政) の機能 (の大半? or すべて?) が、首長部局に移行してところも多い?! もちろん、「生涯学習の推進 (生涯学習社会の実現)」は、首長部局か、教育委員会かというような、いわゆる二者択一の課題ではなく、まさしく、それらを包括した「総合行政」という枠組みで行われることが、理念上も、実際上も、相応しいということではある!

要は、すべての領域において、「生涯学習の推進 (生涯学習社会の実現)」は関係してくるということでもあるが、そうは言っても、それを、まさに事務局的に、予算的にも、要員的にも、持続的・安定的な状況の中で推進していく内部組織 (しくみ) が実現していないと、例えば、首長の交代、人事の混乱、さらには、役所のタテワリ (縄張り?) 意識の残存等によって、望ましい成果を出し続けていくことは難しい? ましてや、そこに、「学校教育 (行政)」の関わりが、直接的には出て来ないのであれば、折角の「地域学校協働活動」や「社会に開かれた教育課程」の中身や方向性が、地に着いたものとはならない (従前のしくみや取り組みに留まる?) ?!

だからこそ、そうした視点や取り組みの必要性や、教育行政における社会教育 (行政) の、新たな役割と位置づけを主張してきた私に、その辺りを、これからの「まちづくり」の方向性として喋って欲しい? そういうことを、秘かに期待している内部スタッフがいるのだとしたら (そうであれば、ある意味嬉しいし、やりがいも出て来るのであるが?)、やはり、そのことを言わないわけにはいかないであろう (逆に、そういうことしか喋れない?) ?!

(2) 「ひとつづくりとまちづくり (の循環 or 往還)」をどのように説明できるか? 成否の鍵は、そこにある?!

ということで、私の役割 (期待されていること?) は、私なりの表現で言えば、「ひとつづくりとまちづくり (の循環 or 往還)」の関係をどのように説明できるかということであり、成否の鍵は、そこにあるのだと思っている?! 可能ならば、例の「ひとつづくりとまちづくりの循環構造図 (愛称? 「曼荼羅図」)」を、参加者・視聴者のみなさんに提示して、そのことの実感 (納得?) を視覚的に得ようとも考えているが、果たして、どうなるかである?!

そこで、改めて、「教育協働」とは、「ひとづくりとまちづくり (の循環 or 往還)」にどう位置づくのか、ということになるが (図で言えば、上半分!)、とにかく、ここで大切なことは、「ひとづくり (教育)」と「まちづくり (地域づくり)」は、決して分かれているものではないということである (便宜上? 行政的には、別れて意識され、取り組まれているだけ?) !

なお、今ここで改めて思い出すのは、かつて行われていた「生涯学習のまちづくり (事業)」(1990年代の10年間くらい? 当時の文部省が展開していた国の補助事業で、その間、全国の市町村の三分の一くらいが、原則3年間の期間で取り組んでいた!) であるが、そこでは、いみじくも、「生涯学習のためのまちづくり」か、それとも「生涯学習によるまちづくり」か、というような、ある種の禅問答的な? やりとりが話題となっていたようにも記憶しているが、その現代版のような気もしないではない?! ちなみに、那覇市は、その事業に、沖縄県内では一番早く取り組み (他2市町)、私も、その動きの中で、確か10年間くらい (通算すれば、それ以上?)、関連の施策・事業に関わらせてもらった経緯がある!

そうしたものの延長線上に、今の「市民協働のまちづくり」施策・事業も位置づくのであろうが、そのことを、教育行政の枠組みではなく、広く行政全体の枠組みで、しかも、キーワードを替えて? 発言しなければならぬということに、それなりの複雑さ (淋しさ?) も感じるが、実態はともかく、「生涯学習の推進 (生涯学習社会の実現)」「社会に開かれた教育課程」あるいは「地域学校協働活動」等が、まさしく「市民協働のまちづくり」の中で志向されるという枠組み・スタンスは、ある意味普遍的なものとも言えるのかもしれない?! その意味で、「協働によるまちづくり推進協議会」、あるいは「校区まちづくり協議会」の発想と取り組みには、その可能性 (意義?) は十分に見出せるのではないだろうか?!

(3) 改めて、「市民協働のまちづくり」をどう捉えればよいか?!

すなわち、現在、「総合教育政策」「地域学校協働活動」「社会に開かれた教育課程」といったように、学校と地域、あるいは学校教育 (行政) と社会教育 (行政) の一体的推進が、しきりに唱えられ始めているが (それは、東日本大震災というような災禍をきっかけとしてではあったが!)、教育問題の解決に当たって、我が国の地域社会が、新たなしくみ、新たな「協働」の取り組み (→「教育協働」) を始めなければならなくなったということである (「地方創生」というスローガンの下に!) !そして、そこでは、一般行政で進められている「まちづくり→協働のまちづくり」と教育行政で進められている「地域学校協働活動」の双方の動きの中で、他ならぬ「社会教育 (行政)」のあり方 (存在意義?) が、より真摯に問われてくるということでもある! 何故なら、「社会教育 (行政)」は、「人づくり (教育)」と「まちづくり (地域づくり)」の双方に関わるからである!

したがって、問題は、現実の諸方策 (流れ) の中で、その「社会教育 (行政)」が、どのような姿・形で、その任務 (ミッション?) を果たせばよいのかということになるが、その「まちづくり (地域づくり)」が、「ひとづくり (教育)」とは、また別の課題であって、その活動や成果は、それぞれ別の枠組みと捉えられているのならば (現実にはそうなっている?)、現状はかなり厳しいものとなるのかもしれない (関連はしていると、多くの人は思っているが、行政のしくみや対応の仕方は、それぞれ別なもの?) ?! 単純に言えば、首長部局は、「まちづくり」に対応するものであり、教育委員会は、「ひとづくり」に対応するものであるという考え方・スタンスである!

しかしながら、「まちづくり」にしる、「ひとづくり」にしる、そこには、人々の出会い、交流、学びのプロセスがあるのであり、その機会や成果を、お互いに循環 (往還) させることが、今、改めて求められているということである! そのパワーと知恵が、双方にとって必要であるのである! それ故に、その気付きと取り組みのスタンスの変化が重要だということであるが (ただし、「循環」とか「往還」というのは、要素や局面の関係を視覚的、構造的に示したものであり、その関係自体は、むしろ表裏一体と言える?)、それが、「市民協働=まちづくり協働+教育協働」ということである! つまり、いずれの「協働」にあっても、そのプロセスや成果は、そこに生起する、人々の生涯に亘る学習のプロセスや成果であり、すべてリンク (循環 or 往還) しているということであり、まさに「ひとづくりはまちづくり」、「まちづくりはひとづくり」ということになるということである!

ただし、どちらにとっても、もう一つの要素・局面は、見えない (意識に上らない?) ということになりがちなので (タテワリ行政の弊害?)、その関係・構造を、全体的、かつ冷徹に見守り、そして支援・鼓舞していく、まさにコーディネーター、アジャスターの役割を果たす機関や人 (スタッフ) の存在が重要となるということでもある (そのスタンスはなかなか難しいものであるが! →「社会教育 (行政) の復権」!) !

末尾に、ある時期「社会教育の終焉」ということが、かなり実しやかに論じられたことがある! そこでの主張は、「成熟した市民による自主的な市民文化活動」が重要であり、社会教育 (行政) というような、「(お上からの) 教育」による支援・普及活動は、最早不要である? というようなことであつたが、現在の「市民活動」が、例えば、そうした「成熟した市民による自主的な市民文化活動」ということだけを志向しているのであれば、また、おかしな事態を招くかもしれない?! 「市民協働」「協働のまちづくり」、その「協働」は、行政、民間、一般市民を問わず、様々な実施・活動主体の「協働」を意味しているはずである! 教育 (ひとづくり) の領域においても、当然、そのことは然りなのである!